

会員数 58名
欠席者

出席者44名・欠席者11名・免除会員9名
麻田・有家・後藤・飯間・川原・和泉享・加内・松山・中野昌・曾川
稲田・石合・倉田・松村・大西・大山・齋賀・陶國・谷川-会員

前々回出席率 50.9% (4/5)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 和泉 清憲
幹 事 細谷 誠
会報委員長 大西 信亮

お知らせ

- 4月のプログラム
 - 5 (No.1)-夜間例会
 - 13 (No.2)-クラブフォーラム
 - 20 (No.3)-休会
 - 22 (No.4)市民講座
 - 27 (No.5)クラブフォーラム

ニコニコBOX;なし

<ニコニコ会計累積/¥332,000>

がんばるBOX;なし

<がんばる会計累積/¥148,500>

■例会事業;60周年記念事業 第6回市民講座

大名庭園を未来につなぐ ~お殿様のお庭から、市民のお庭へ~
公益財団法人中津万象園保勝会 理事長 真鍋雅彦

今日は大名庭園を未来につなぐというテーマで話をさせていただきます。全国で大名庭園は55か所ぐらいしかないのですが、香川県には2か所あり大変希少価値があります。では、中津万象園の紹介動画をご覧ください。

動画内容

- ・京極家2代目藩主高豊が柿本人麻呂の歌にも出てくる美しい場所に造営
- ・琵琶湖に見立てた池に海水を引き込み島に橋を架け、近江八景をモチーフ
- ・朱塗りの太鼓橋の邀月橋、東に鶴鶴溪の滝、西に雁の島、雪の島、鐘の島などがある
- ・お茶室に残っているのは高床式の観潮楼と母屋で、当時の藩主は優雅に船で乗り入れた
- ・井戸を掘る場所を探していた高豊は、愛馬が水を飲んだ場所を掘ったという伝説がある
- ・樹齢600年の大笠松、直径15m、近江から取り寄せた松を傘型に仕立てた
- ・石投げ地蔵は、江戸時代の庶民が石に願い事を書いて外からここに投げ込まれた
- ・明治維新後は所有者がたびたび変わり南海大地震では1mもの地盤沈下、園は荒廃
- ・昭和45年から中根金作氏の指導により修復工事が進められ、昭和57年に完成
- ・美術館や陶器館を併設し、昔も今も庶民に愛され文化を共有
- ・丸亀城と共に文化の象徴としてこれからも受け継がれなくてはならない

紹介動画でした。ではなぜ、万象園は今まで残ってきたのでしょうか。答えは文化財だから残ったということではなく、誰も壊そうとしなかったからだと思います。京極家を離れて民間所有のお庭として転々としたのですが、この場所を荒らさないために歴代の所有者たちの手により様々な努力や工夫がなされてきました。昭和36年の新聞には池を埋め立てて国民宿舎建築計画や、ボラヤチヌの養殖場にする計画の紹介記事が載っています。

昭和45年には当時の所有者が丸亀市に売却を打診しましたが、庭園の面影なしとされ、交渉はまとまらず、富士建設が購入することにしました。周囲には反対する声もあったようですが、文化の大切さ、企業利益の地域還元の必要性から購入を決意しました。荒廃していた万象園でしたが、足立美術館を手掛けた中根金作氏に修復指導を依頼し、社員及び協力会社一丸となって修復しました。植木では、樹齢100年以上の松が100本近く枯れており、雑木を4524本捕植し814本を植栽しました。水没していた石組が826トン、復元用に購入した組石が2000トンにもなりました。

昭和57年に中津万象園・丸亀美術館として一般公開し、二度と荒らされないために美術館を併設し、地域文化の拠点にしたいと考えました。平成4年に万象園の復元に尽力した先代の真鍋利光が亡くなりました。父から、わしが死んだらお前はこの場所を売るんやろうと言われたのですが、自分はここを売るという決断はしませんでした。海外資本や結婚式場、まとまった土地開発など選択肢はあるかもしれないけど、本当にそれでいいのか自問自答し、文化財として渡された庭を、同じく文化財として価値ある形で未来に引き継ぎたいと考えました。

当初は富士建設の観光サービス部門として運営しましたが、1社だけの支援では再び荒廃するだろうと考え、平成10年に財団法人化し平成24年に公益化をしました。しかし、地方の力が衰えていく中で、文化財であれば無条件に未来に残るものではなく、現実

E-mail,office@marugamerc.com <http://www.marugamerc.com>

(裏へ続く)



今私たちがすべきことは、文化財庭園を守ることにについて、理解と共感を広げていくことを軸に、公益法人の活動を組み立てることだと考えています。大名庭園の維持保全、庭園の魅力を伝える活動、今日選定・大規模修景など非日常の管理、価値の再発見、地域への発信、愛される場所となるための試みなどの活動をしていきます。今、中津万象園には三つの宝があります。一つは適切な指導を得て修復された庭園そのもの、二つ目は官民企業間の枠を超えて支えてくれる同志、三つめは老木の多い庭を知り尽くした男庭さんの存在です。これらの宝を守り育て、未来につながるものが私に課せられた役割です。現在お庭が抱えている問題は、手入れを止めることができない、池のヘドロの改善、民間企業頼みで持続可能性に欠ける、定期的に大型投資が必要、庭師の属人的な技術と知恵に頼るところが大きいというものです。大名庭園は江戸時代を代表する文化遺産として価値は定まっているはずなのに、全国的に減少しつつあります。存続させていくためには、熱意と有識者の関与と経済的基盤が揃わなければなりません、特に経済的基盤がネックになります。市との連携は進むものの、収支上未だに寄付金割合が大きいです。民間の力だけでは大名庭園が後世に残ることは困難です。最終的には市に大政奉還することが理想だと考えています。いずれにしろ皆さんのご支援がなければできないので、今後ともよろしく願います。

スイミングとオリンピックワールドクラスの選手を育てて
株式会社伊藤スイミングスクール 代表取締役 伊藤 忠彦



今日は今までの私の水泳の歴史の話をしたと思います。私は7月14日生まれの現在75歳で、土器町の方で長く住んでいます。水泳の出会いは丸亀東中時代に水泳部に入ったのですが、高松や東讃や三豊が強く、中讃は弱い時代でした。2年までは決勝に残れず、3年の総体では6位で決勝に進みました。3年生で進路を決める時、中学校に多度津竜泳会の方が来られ、話をされ体を確認され、それから私の人生が始まったわけです。多度津工業高校では建築科に入学したのですが、建築に興味を持ったことが自分の人生においても結構役に立ち、室内プールというものに興味を持ちました。当時の高校では水温が13度以上になったら練習をしましたが、寒さや水の冷たさが弱点で、焚火で髪の毛が焼けても痛くないほど冷えていました。そんな頃丸亀駅まで歩いて通っていたので、駅のそばに日活映画館があり、そこで見た映画“大学の若大将”の加山雄三の影響で、大学で水泳することを夢見て合宿所や授業に通ったものでした。担当が体育の先生で部活の顧問をし、水泳してそんな風になりたいという願望も持ちました。高校2年の時に東京オリンピックがありました。新潟国体が地震で中止になりましたが、インターハイには出場しました。当時は既に室内プールがある日大豊山などが強く地方の選手はなかなか勝てない時代でした。そして体育の先生になりたいと思い、日体大に進みました。当時の東京は光化学スモッグがすごく太陽が見えず水温も上がらない状況でしたが、練習を積んで何とかレギュラーになれました。東京オリンピックでは日本選手が惨敗したのを受け、指導者として選手を育てたいと思い、いろんな資格も勉強して取りました。そのころ世田谷には区民プールができ、夏休みにコーチのアルバイトをして、車が買えるぐらいの貯金ができました。そのお金で北海道や沖縄に旅行し、いい経験をしました。当時、有望な選手は大学を休学しアメリカに行って練習しており、後の日本の水泳界を変えていく人材になりました。私も行っていけば違った選手生活になったかもしれません。大学卒業後、高校の教員になり2年後にビニルハウスのプールを50万ぐらいで作りましたが火事で燃えてしまいました。とにかく水泳のことばかり考え、いろんなところに話を聞きに行き、トレーニングのことを考えました。年間120日合宿をし、遠征などにも行き多忙な生活をしていました。インターハイで2位になった松浦選手は法政大学に進み活躍しました。そのころ高松に温水プールができましたが、市民プールのため私たちには貸してくれませんでした。そこで、室内プールを作ろうと考え、資金面にも苦労しましたが2000人もの会員を集めることができ順調にスタートしました。民間ということで反対もされましたが強い気持ちで設立にこぎつけました。1984年には日本スイミング協会の理事に就任し、同年ロスアンゼルスオリンピックが民間主導で黒字運営に成功しました。翌年会場を見に行き、安っぽい施設作りを見てこれでもできるのだと感じました。アメリカと日本の違いも多く学びました。施設とコートと選手がいい在り方をしているので、今後も日本水泳は頑張れるだろうと思っています。

花車の選手についてですが、中学時代は華奢な子で、チームメイトの長野、綾、村上君たちの方が強かったのです。しかし、高校になって広島インターハイで100m平泳ぎ1位を取り、自信を持ったと思います。来年の7月のパリオリンピックに向けて様々な練習や大会の調整を行っています。世界選手権で銀メダルという快挙を達成しましたが、本番はオリンピックなので頑張りたいと思っています。